

# 地方創生推進交付金活用事業の概要

## ◇地方創生推進交付金とは

地方創生を推進するため、国により2016(平成28)年に創設された交付金(1/2補助)。

地域の実情に応じた地方創生を後押しするため、地方版総合戦略に基づく地方公共団体の自主的・主体的で先導的な事業を支援するもの。外部委員による効果検証を行い、適切なPDCAサイクルでの事業実施が求められる。

## ◇余市町の地方創生推進交付金活用事業

### 1. 食の都よいち、フルコースプロジェクト

○期 間:

2019(令和元)年度～2023(令和5)年度(5年間)

○タ イ プ:横展開タイプ

○事業形態:余市町単独事業

○概 要:

地域でフルコースを作れる可能性が秘められているほど食資源に恵まれていることから、食の可能性を十分に引き出すことで食の都としてのブランディング・地位を確立するための情報発信や、生産者やサービス事業者等の所得の向上等により、移住・定住者の促進につなげ活力のある地域の確立を図る取組を実施する。

○総事業費:165,000千円(5年間)

○事業内容、効果検証:資料2-1のとおり

### 2. よいち地域まるごとマリアージュ推進プロジェクト

○期 間:

2020(令和2)年度～2024(令和6)年度(5年間)

○タ イ プ:横展開タイプ

○事業形態:余市町単独事業

○概 要:

令和元年度まで4年間実施した「余市・仁木ワインツーリズムプロジェクト」の後継事業として、ワイン産業を核としながらも一次産業の魅力向上及び新たな観光コンテンツや特産品を町内で楽しむことができる環境整備を行い交流人口の拡大により地方への新たな人の流れを創出する取組を実施する。

○総事業費:116,684千円(5年間)

○事業内容、効果検証:資料2-2のとおり

# 1. 食の都よいち、フルコースプロジェクト【2022年度(4年目)】

## ○事業内容

4年目事業費:39,000千円

各年の位置づけ	事業の深化
取組	○広報事業 ○販路拡大事業 ○商品開発事業 ○食資源倍増事業 ○商店街販売力強化事業
事業効果	主に前年度からの取組を継続。コロナ禍により誘客イベントの中止となってしまったが、食の都よいちブランドの確立に向け、食資源の持続拡大及びメディア発信等の取組みにより町の魅力と認知度の向上が図られた。

## ○事業効果検証

KPI(5年間累計)		2019年度 (2019.4~2020.3)	2020年度 (2020.4~2021.3)	2021年度 (2021.4~2022.3)	2022年度 (2022.4~2023.3)	進捗状況 (4年目終了時点)
一次産業への 新規就業者数の増	30人	8人 (期間累計8人)	8人 (期間累計16人)	11人 (期間累計27人)	7人 (期間累計34人)	113% 達成済み
年間観光入込数の 増	10万人	前年比13.4万人増 (期間累計13.4万人増)	前年比74.8万人減 (期間累計△61.4万人)	前年比1.5万人増 (期間累計△59.9万人)	前年比36万人増 (期間累計△23.9万人)	△239% 遅れている
一次産業の生産高 の増	12億円	前年比8.9億円減 (期間累計△8.9億円)	前年比0.8億円増 (期間累計△8.1億円)	前年比0.8億円減 (期間累計△8.9億円)	前年比4.5億円増 (期間累計△4.4億円)	△37% 遅れている
新規開発商品数の 増加	5個	0個 (期間累計0個)	1個 (期間累計1個)	1個 (期間累計2個)	0個 (期間累計2個)	40% やや遅れている

## ○分析結果および今後の展望

- ・引き続き大規模なイベントは見送られたものの、既存事業をベースに据えつつ施策のブラッシュアップを実施。
- ・コロナ感染症の行動制限緩和に伴い、観光による来訪増、さけやぶり等の漁獲高の増によりコロナ禍からの回復傾向がみられる。
- ・最終年度は、インターネットやICT等を活用した新たな情報発信・販路拡大等の取り組みを進めるとともに、制限されていた都市部へのトップセールスを通じたプロモーション等により、強固な生産基盤体制を構築し持続可能な産業の振興を図る。

## 2. よいち地域まるごとマリアージュ推進プロジェクト【2022年度:3年目】

### ○事業内容

3年目事業費23,725千円

各年の位置づけ	事業の深化
取組	○一次産業の魅力向上 ○生産基盤強化、担い手確保 ○ブランド発信・PR事業 ○新たな観光コンテンツ及び特産品の磨き上げ ○6次産業化の推進
事業効果	・一次産業のさらなる魅力向上、生産基盤の拡大、担い手の確保に係る底上げ支援。 ・ワインツーリズム以外の新たな観光コンテンツの開発と特産品を楽しめる体制整備による交流人口の拡大。

### ○事業効果検証

KPI(5年間累計)		2020年度 (2020.4~2021.3)	2021年度 (2021.4~2022.3)	2022年度 (2022.4~2023.3)	2023年度 (2023.4~2024.3)	進捗状況 (3年目終了時点)
新たに6次産業化に取り組む生産者数の増	12軒	2軒 (期間累計2軒)	2軒 (期間累計4軒)	2軒 (期間累計6軒)		50% 増加傾向
一次産業に従事する、町外からの移住就業軒数の増	23軒	3軒 (期間累計3軒)	11軒 (期間累計14軒)	3軒増 (期間累計17軒)		74% 増加傾向
ワイン用ぶどう以外の取扱数量の増	1,270t	前年比651t増 (期間累計651t)	前年比557t減 (期間累計94t)	前年比136t減 (期間累計△42t)		△3% 遅れている
民泊の宿泊客数の増	125人	前年比27人減 (期間累計△27人)	前年比81人増 (期間累計54人)	前年比126人減 (期間累計△72人)		△58% 遅れている

### ○分析結果および今後の展望

- ・引き続きコロナ禍に伴うイベントの開催見送りのほか、受入実績の多かった民泊事業者の事業縮小など、来訪者の落ち込みが顕著に現れる結果となった。コロナ後の来訪者・宿泊者回復を見据え、ICTを活用したシステム構築など、町全体の受入態勢の整備を推し進める必要がある。
- ・一方で、町内で就業を希望する生産者が順調に推移しているため、これまでの施策を継続して実施する。